

地方中小病院における 医師確保策について

当院における
医師招聘策

当院における
若手外科医の
教育方針

当院における医師招聘策

- 1 寄附講座
- 2 高額医療器械の整備
- 3 職域事業研究
- 4 海外留学資金支援制度
- 5 給料の改善
- 6 定年の延長

寄 附 講 座

愛媛大学
小児科

H22/4~

徳島大学
内科

H25/12~

徳島大学
麻酔科、眼科、看護学

H27/2~

当院一般外科の高額医療器械の整備

すべての
Energy device

3D腹腔鏡(2014)

Vincent(2014)

Osna(2015)

・毎年診療収入の3%を高額医療器械として購入可能

科学研究費

当院の臨床研究センターは文部科学省の研究機関になりました(平成28年2月)

当院常勤医

希望者

研究者登録

文部科学省
日本学術振興会

- 基盤研究:500万円以下~2億円程度
- 挑戦的萌芽研究:500万円以下
- 若手研究:500万円以下~1億円程度
- 研究活動スタート支援:500万円以下
- 奨励研究など

申請

科研費

- 臨床研究
- 基礎研究
- 大学との
共同研究など

職域事業研究

公立学校共済
組合 本部

全国の8つの
公立学校共済
組合病院に対
してそれぞれ
1000万円の研
究費を支給

H26年度から
市中病院でも
臨床研究が可
能となった

医師海外留学資金支援制度

・下記の医師に**300万円**を貸与

1

当院に勤務または他院に勤務している

2

大学教授の推薦状あり

3

帰国後、当院での勤務1年ごとに100万円の貸付金を免除する

給料の改善

地方なのに都会と給料が同じ!!

卒後10年目

卒後15年目

卒後20年目

年収 1480万

年収 1660万

年収 1900万

定年の延長

S34 → H19 → H24 → H27

60歳

60歳以上の
医師数
1名

65歳

60歳以上の医師数
1名

70歳

60歳以上の医師数
4名

70歳

60歳以上の医師数
5名

当院の若手外科医の教育方針

1

丁稚奉公制度の廃止

2

まじめな医師になるよう導く
責任の取れる行動を教える

3

なるべく多くの術者経験を
(年間100例以上)

結語

1

医師確保、若手医師の指導等には初期投資が必要

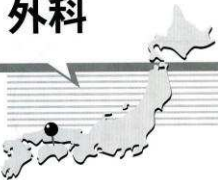
2

医師数の増加が得られるならそれ以上の収益が期待される

3

若手医師に責任感と実力をもたらしめるような教育を施行中

公立学校共済組合 四国中央病院 外科



外科スタッフ一同



病
院
め
ぐ
り

当院は全8病院の公立学校共済組合直営のなかで、6番目の病院として昭和34年に愛媛県四国中央市に開設されました。その後、愛媛県宇摩地区の数少ない中核病院として、順次診療科を増設し、現在の18診療科、病床数275床（一般229床、精神46床）となっています。

外科は常勤医5名で日々の診療に当たっており、徳島大学外科学教室の関連施設で若い先生のローテーションを受け入れています。主に消化器外科、小児外科を中心に年間380例ほどの手術症例数で、腹腔鏡手術は100例ほどです。腹腔鏡は原則吊り上げ式にて行い、消化管手術では小切開手術も併用して行っているのが特徴です。

さて、われわれを取り巻く医療環境は大変厳しいものが続いており、地域医療の破綻、とくに医師の地域偏在、診療科偏在による医師不足、さらに看護師不足は深刻です。当院では本年度、院内保育所を設置するなど、可能な限りバリアを減らし、今後とも患者さんや医療従事者にとって魅力ある病院になることを目指したいと考えております。そこで当院が行っている医師、特に若い先生が快適に働けるような工夫を紹介したいと思います。

まずはじめに、一昨年には医師確保策の一環として徳島大学より内科の寄附講座ができましたが、昨年度は麻酔科、眼科、看護部の寄附講座もできました。特に当院では麻酔科はここ何年間も常勤医がいない、緊急手術は自家麻酔でしたが、現在では常勤の麻酔科の先生のいることのありがたさを感じています。

高額医療機器の件ですが、当院では医療収益

の数%を高額医療機器の購入に充てることができ、病院の規模の割にはかなりすばらしいものがそろっています。さすがにダヴィンチはありませんが、3D腹腔鏡は2台あり、Vincentなど手術に必要なものはすべて揃っています。またリンパ節の良悪性判定が可能なOSNA[®]も今年度に購入となりました。

昨年度より、学校共済組合本部から各共済病院に年間1,000万円の職域事業研究費助成金が配布されることになりました。これで科研費基盤研究(C)程度の研究が当院でも可能となりました。一般病院でも臨床研究をしたい方は当院にお越しください。またこれも本部からですが、当院で働いた、あるいは将来勤務する予定の先生に相当額の留学資金が与えられることになりました。

最後に手術のことですが、当科では若い先生に積極的に術者となってもらっています。術者を若い頃からすることは今でも賛否両論があります。昔から「手術はみておればできるようになる」とよく言われました。しかし、術者にならないと技術的な面はもちろんのこと外科医としての胆力が身につかないのは自明の理です。そこで当科では誰にでもやらせるというわけではありませんが、患者をしっかりと診る先生にはたくさん術者になってもらっています。

以上は病院の改善策のほんの1例です。当院では地方で生き残れるモデルケースを目指して頑張っています。

(石川正志・記)

〒799-0193 愛媛県四国中央市川之江町 2233

(臨床外科)

70(9),1135,2015より

公立学校共済組合四国中央病院で働いてみませんか？



公立学校共済組合
四国中央病院
(本院)

三島医療センター
(分院)

